

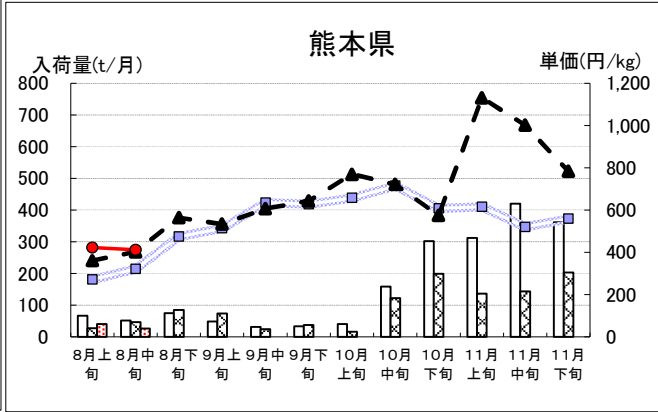
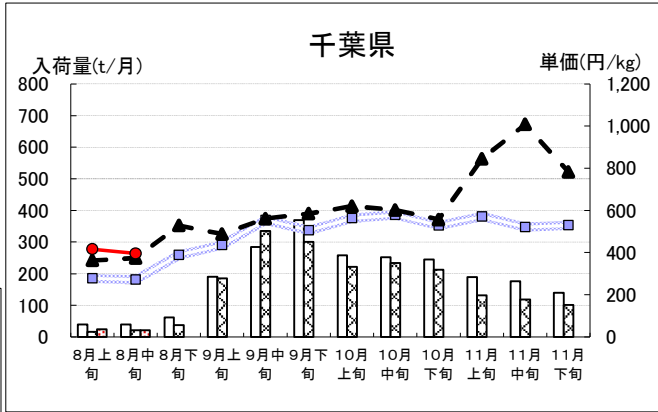
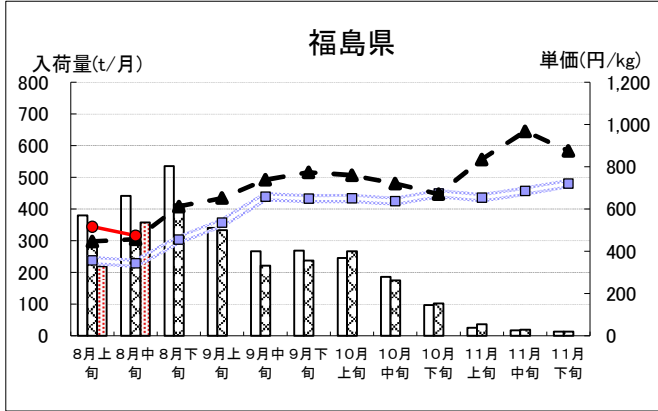
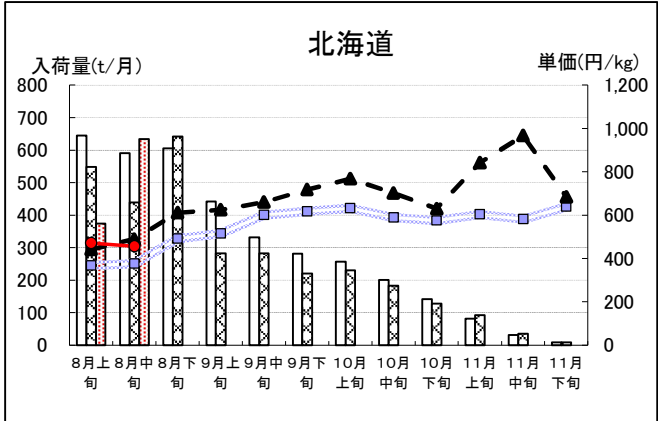
3 今月の青果物

トマト

主要産地のトマトの入荷量(東京都中央卸売市場)

| 産地  | 2025年度9月入荷量 | 2025年度9月シェア率 |
|-----|-------------|--------------|
| 北海道 | 786 t       | 15.9 %       |
| 福島県 | 793 t       | 16.0 %       |
| 千葉県 | 821 t       | 16.6 %       |
| 熊本県 | 136 t       | 2.8 %        |

|        |                            |              |               |
|--------|----------------------------|--------------|---------------|
| 9月入荷予測 | 5,000t(前年比101.0%、平年比90.6%) |              |               |
| 9月価格予測 | 600円(前年比92.4%、平年比106.4%)   |              |               |
| 9月市況予測 | (上旬)<br>強保合 ↗              | (中旬)<br>保合 ⇒ | (下旬)<br>強保合 ↗ |



今後の競合産地の動向は？

トマトは東京都中央卸売市場において最も販売額が高い青果物で、花形ともいえる品目です（令和7年）。全国各地にさまざまな作型の産地が存在し、産地リレーによって周年供給がなされ日々の食卓を支えています。

8月末時点では、北海道、青森県、福島県等の冷涼な産地からの夏秋作の入荷に加え、千葉県等の抑制作の入荷が始まっています。これらの産地に加えて、続く熊本県等加温作の産地も含め、近年、夏期の高温乾燥による影響で生育不良や小玉傾向等が続き、令和7年の8月以降の年内入荷量は過去5年平均と比べ82%と大幅に減少しました。入荷量減少の影響は単価にも反映され、入荷量が振るわない見込みが立った11月以降、急激に単価が上昇していきましました。

今年の東日本・北日本は高温乾燥が続いた過去2年と比べると、涼しい夏となりましたが、反面、曇雨天が続いたことから日照不足となっており、夏秋作では着果不良、抑制作では樹勢の低下等につながっています。年によって目まぐるしく気象条件が変わる中、実需者からは「この時期はまずは出荷までたどり着けることが優先」と、安定生産、生産力の維持を求める声が挙がっています。

